

<特徴的な活動または交付金活用事例>

○畦畔に絵文字作成して地域PRに取り組む

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	石川県 <small>はくさんしかわらやま</small> 白山市河原山協定			
協定面積 22.9ha	田(100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稻			
交付金額 440万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	施設補修積立費		22%
		農用地、農道、水路の維持管理・補修等		4%
		鳥獣害防止柵の設置		20%
	役員報酬		4%	
協定参加者	農業者52人、非農家2人			開始:平成12年度

2. 制度取組の経緯

当集落は、兼業農家が大半を占め、高齢化も進行していることから、耕作継続を懸念する農家が多かった。そこで、耕作放棄地の発生を防止するため、本制度に加入し、地域の中心となる担い手の育成や、一部の農業者が高齢等で耕作が困難になった場合でも担い手や集落全体で支える体制づくりを継続的に図ってきた。

3. 取組の内容

当集落では、第3期への移行に当たり、維持困難な農用地が発生した場合には集落ぐるみで引き受ける体制とし、地域水田農業ビジョンに掲げる担い手の育成を図り、農地の集積や耕作放棄地の解消に努めることにしている。

また、白山麓の山々が近接するこの地域では、鳥獣害の被害も多く、これらの対策に防止ネットを設置し、農地の保全を確保しつつ野生動物との共存を図っている。

さらに特徴的な活動として、集落独自で農地畦畔を刈り込み、「迎 白山市」の絵文字を作成して地域をPRするなど多面的機能の増進にも努めており、絵文字は福井県境と金沢を結ぶ国道157号線から眺められ、話題となっている。



【鳥獣害防止ネットの設置】



【迎 白山市の絵文字】

[集落の将来像]

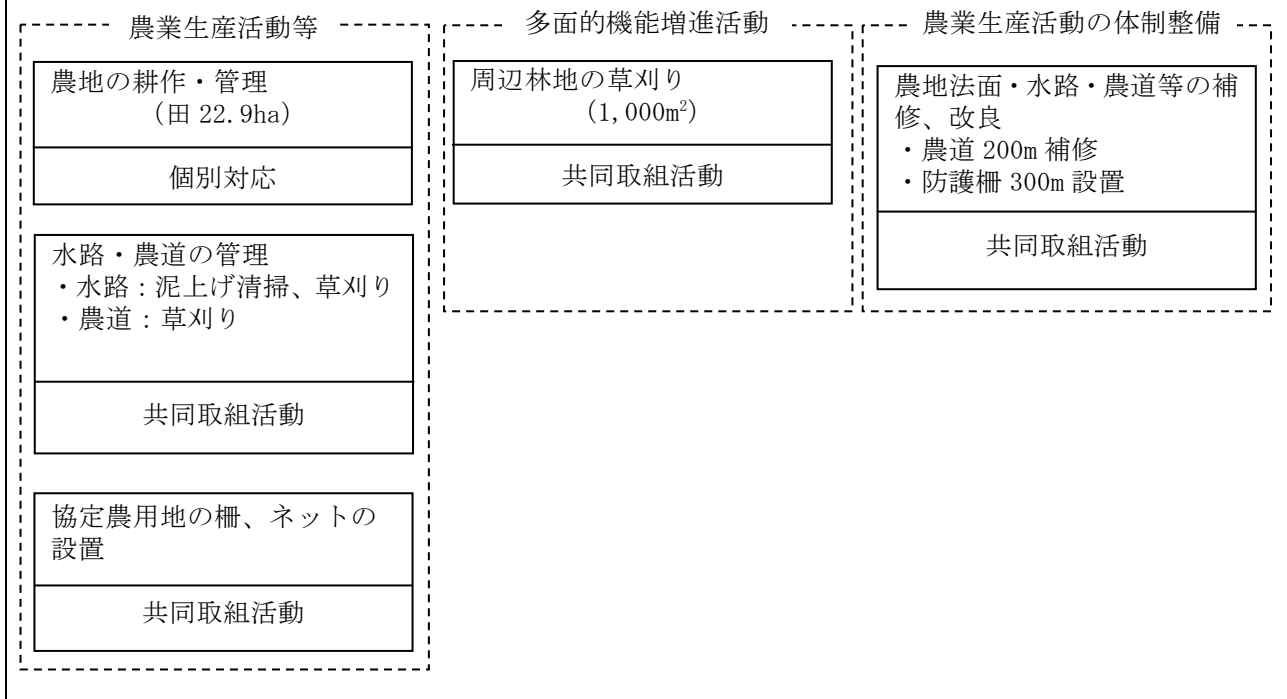
水稲を中心とした単作地帯であるが、兼業農家が大半を占め、高齢化が進み今後の耕作継続を懸念する農家が多いが、担い手確保の目途が立たない状況である。そこで耕作放棄を防止するため、地域の中心となる担い手の育成や、耕作が困難となった場合でも集落全体で支える体制づくりを図る。



[将来像を実現するための活動目標]

- 耕作放棄地を防止するため、地域水田農業ビジョンに掲げることのできる担い手の育成を図り、農地の集積を行い、耕作放棄地解消に努めていく。
- 農業の継続が困難となった農地が生じた場合に備え、集落ぐるみの支援体制を維持する。

[活動内容]



4. 今後の課題等

本制度に継続的に取り組むことにより、農道や水路が定期的に管理されるとともに、交付金を活用して鳥獣害防止ネットを設置することなど、耕作放棄地の発生に歯止めをかけてきた。また、担い手を中心とした集落全体で支える体制作りが構築され、法面に絵文字を作成して地域をPRするなど、集落の活性化に繋がっている。

今後、さらに集落ぐるみの取り組みを進める上で、農地保全や施設の維持管理を集落合同で行う活動への参加について、非農家の方々への理解と協力を得ることが課題と考えている。

[これまでの主な効果]

- 鳥獣害防止対策
 - ・イノシシ防除の電気柵設置 1km
- 担い手集積化
 - ・協定対象農用地の集積 2.3ha
- 多面的機能の持続的発揮に向けた非農家・他集落等との連携
 - ・非農家との連携 8名